

令和4年度 学校評価
 自己評価及び学校関係者評価

学校名 坂戸市立浅羽野中学校

〇「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

〇「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・特色ある学校づくりに向けて、学校だよりやホームページを通して広く地域・保護者へ周知し、また保護者会では、校長による全体説明を行うなど、保護者への共通理解を図ってきました。 ・特色ある学校づくりは全教職員で築き上げていくものであり、共通理解のもと進めていかなければならない。そのためにも、本校の進むべき方向を改めて先生方に示し、生徒・保護者・地域へ発信できるよう、更なる改善を目指していきます。	A	・地域へ配布している学校だよりは読みやすく、学校の様子がわかりやすい。 ・学校教育目標について、教員、保護者、生徒が共通理解する必要がある。 ・浅中力やチャイムを使用しない学校生活といった特色ある学校づくりがなされていると思う。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・防災教育を柱に今年度事業に取組み、より本番に即した訓練を実施したことにより地域と一体となった教育が図れました。 ・近年コロナ禍で地域との交流が大変難しい状況でしたが、小中合同一斉下校などの新たな事業に取組み地域との交流が図れた半面、その他の訓練が進められなかったため、次年度は安全担当と協議し、今年度事業を継続するとともに、その他の訓練についても計画的に進めていく予定です。	A	・小中合同訓練はよかったと思う。中学生が大人として小学生の面倒を見るのは、良いことだと思う。 ・生徒が緊張感をもって実施できるよう引き続き取り組んでいきたい。 ・学校内だけでなく小学校や地域と連携をもって防災教育に取り組んでいる。何かあったときも先生方について相談できます。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・教員数が少ない本校では、年休等の有給が取りづらい状況である。しかし、計画年休の施行や定時退勤しやすい環境づくりなどの改善を進めている状況です。 ・ふれあいデー日は5時に施設すべきなどの意見がある一方で生徒(保護者)対応で退勤できなかつた業務が終わらない中で早い退勤は難しいなどの状況もあり、更なる諸活動等の精選が求められている状況です。	B	・色々努力されていると思うが、まだまだ仕事量は多いのではないかと。これに関しては法律の問題であり学校の努力だけでは改善されない。 ・先生方の能力がより効率的に発揮できるよう、スクラップ&ビルドを進めていく必要がある。 ・学校運営において、教員数が少ないにも関わらず他校と同じ量の負担があるならば、他で負担を減らす工夫が必要と考える。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	・ここ数年、コロナ禍により学び合いの学習が停滞したが、ようやく少しずつ話し合い活動ができるようになってきました。 ・次年度は学力向上に向けたテーマを改めて設定し、授業研究会及び研修計画を検討し、また、短時間研修なども随所に入れながらICTの普及に向けた取組も進めていく予定です。	B	・よくやっていたらと思うが、学力だけ見ると浅中の学力は高い方ではないと思う。 ・コロナ禍で様々な工夫をしながら授業を行っている様子が伺える。新学習指導要領の目標達成に向け来年度も継続してほしい。 ・先生方が生徒に行いたい授業が実施できるような研修や研究授業が行えるようになってほしい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・道徳の授業は学年道徳と持ち回り授業の展開により、効果的に授業を進めることができた。得意分野の内容を各学級への指導を通して豊かな心を育てていきたい。 ・次年度は、月曜日5校時を全学年道徳にする予定で進んでおり、教員相互で授業見学ができるよう自主研修の機会にしていく予定です。	B	・学年道徳により担当する先生のいろいろな思いや考えを知ることができると思います。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。(市共通項目)	B	・生徒が落ち着いていること、積極的なあいさつは来校者から常に評価をいただいています。 ・本校生徒の課題は「自分の意見や考えをうまく伝えられないこと」についてです。これは、今多くの学校で抱えている問題です。背景にはコミュニケーションが苦手や孤立傾向等が考えられますので、今後この対応について研修等を行っていく予定です。	B	・学校へ来校する際、多くの生徒があいさつしてくれる。 ・生徒の授業に臨む姿勢が生きていていて素晴らしい。 ・自分の意見を発表するのは大人でも難しいと思います。学生のうちにできるチャンスですので是非伸ばしていただきたい。 ・明るく元気な授業風景に感じました。PC等の授業で準備する教員の負担増や不慣れな生徒の対応が心配である。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・教職員事故防止に向けて職員会議や研修、日報等を通して情報提供及び協力を仰いできました。本校は風通しの良い職場になっており、教職員間の中で相互に情報交換がなされるなど、意欲的に研修等へ取り組んでいると感じます。 ・これからも本校から絶対に不祥事・教職員事故が起こらないよう、更なる環境改善に協力いただき、気持ちの良い職場環境を目指します。	A	・学校職員がやりがいを持って職場の実現を強く期待しています。 ・努力がなされていることに敬意を表します。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	B	・本校では二者面談やいじめアンケート等を通して生徒の悩みや不安を聞く機会を設けており、教員それぞれが生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の悩みを聞いて、その情報を教員間で共有し、学校全体で対応できるように取り組まれました。 ・個に応じた支援は通常学級の場合無理もしてしまう傾向にあり、支援しきれない生徒もいるため、今後の課題に挙げられます。	B	・浅中全体として温かなのんびりとした雰囲気のある校風だと思う。ただ、馴れ合いになりすぎている感も否めない。また、不登校が多いのも残念である。 ・十分に生徒一人一人を認め、大切に接しているように見える。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・ユニバーサルデザインによる教室環境を整備した結果、生徒が以前に比べて集中して授業に取組んでいます。 ・特別支援教育体制充実に向けて、個に応じた指導を目指し取り組んできました。 ・次年度以降、特別支援教育の研修や巡回相談を実施し、専門的な知識を養っていききたい。	B	
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・毎月行われている安全点検の結果、学校施設設備による事故は起こりませんでした。これは、未然に先生方から危険箇所、破損箇所を報告していただき、対応できた成果だと思います。校舍老朽化に伴う修繕箇所は今後も出てきますが、これからは早急に対応していきます。	A	・校舎内を回って、教育環境の整理、充実が図られているように感じました。 ・防災倉庫のメンテナンスを地域の防災会とタイアップする方策もあるのではないか。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	・学校だよりや学年だより、学級通信などを通して、それぞれの立場で子どもたちの教育活動が発信されているため、地域や保護者へ適切な情報が発信されています。また毎日更新しているホームページも4000アクセスを超えました。今後も、開かれた学校づくりに向けて生徒が活躍する姿を情報発信していきたいと思っています。	A	・学校からの発信は本当にたくさんあり、学校の様子がよくわかります。手紙を子供がしっかり持ち帰り親に渡してくれるとさらに良いです。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・地域人材の活用は、コロナ禍であった1、2学期の状況では積極的に呼べる状況ではありませんでした。唯一防災教育については、地域の力を借りなくては成り立たないことだったため、自主防災の担当と綿密に協議して事業展開を行うことができました。次年度は、積極的に地域人材の活用ができると思います。	B	・災害に向けた小中合同一斉下校訓練は地域の防災組織を巻き込んだ初めての試みであったが、これは生徒だけでなく地域に対しても防災というものを考える意味で有意義であった。今後も工夫をしながら続けてほしい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・今年度の小中連携事業 ○全職員対象…6月小中連絡会、10月小中合同一斉下校 1月小6体験入学、2月小中連絡会 ○一部教員対象…8・10月合同避難訓練担当者打合せ 1月大家小中連絡会、3月新入生小中連絡会 ・コロナ禍の行動制限の中で、上記連携事業では人的交流ができ、小学校の先生方と顔を合わせることができた。今後も小中中間での連携が更に密にできるよう、小学校に協力を仰いでいきたいと思っています。	B	・中学校での変化に戸惑うことなく自ら学習に取り組めるスタイルに移行できるようになるとよいと思う。 ・小中連携教育は小5・6年生は特に大切だと思います。継続して下さい。